

発表スライド

山下クラス一班

【テーマ】

「女性が社会で活躍するために私たちができること」

目次

1. 女性自身が活躍している自覚がない
2. そもそも女性であるということを意識する意味
3. 社会と個人
4. 男女の強みを發揮できる環境
5. 強みを活かすことで生まれるプラスの効果

1. 女性自身が活躍している自覚がない



女性が活躍していないことを前提にしたテーマ

はたして本当に活躍していないのか？

自覚がないだけ

自分の活躍を当たり前のようにとらえてしまっている

家事だって立派な活躍！

内閣府の試算では、

家事労働の年間評価額は約193万円、

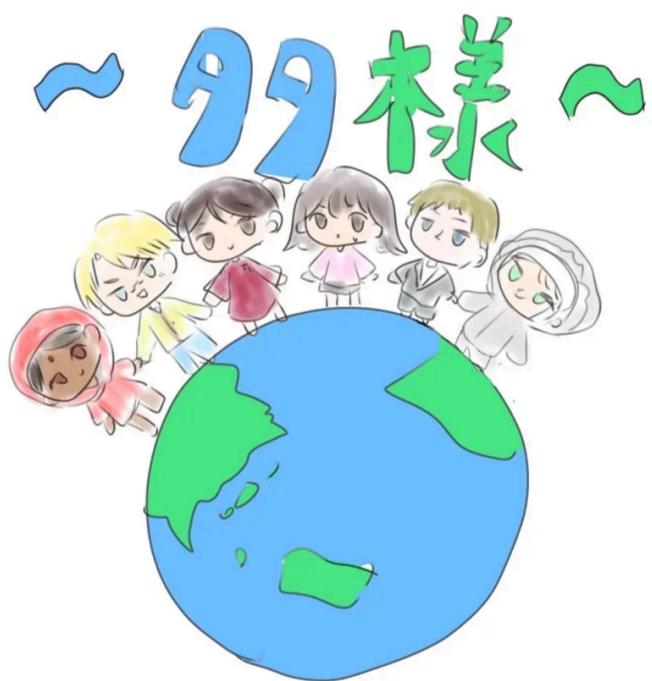
時給換算すると約1,473円とされています

現代には、今の自分の強みや弱みを知る機会が少ない

どうなれば活躍できているのかという基準を見直す必要がある

他人と自分を比べてしまうのが女性の特徴でもある

2. そもそも女性であるということを意識する意味



「性別にとらわれることなく個人で捉えるべき」

性別による偏見を取り除き、誰もが平等に評価されることを目指す

女性が活躍できていないと考えるのはおかしい

性別を理由に、これらの選択を過小評価することは適切ではない

見つめ直すべき重要な課題

3. 社会と個人

個人個人に合わせることができればこれ以上ないこと

しかし

現実的に考えたとき、

社会が個人に合わせて動くことは不可能

✗ 性別の違いで優劣をつける“差別”

○ 違いを理解したうえで適切に役割や、環境を整える“区別”

「差別」ではなく「区別」

4. 男女の強みを発揮できる環境



まずは男女の違いを理解し、
それぞれの強みを発揮できる環境を作ればいい

男女それぞれの強みの例

女性：共感力が高い▶コミュニケーションが必要な場面で力を発揮

男性：理論的思考や課題解決力に優れている▶新しい事業の立ち上げや技術職の
場面で力を発揮

差別をなくして平等に、という考えが世界的に広まっている

しかしそれでは何も解決しない

男女平等になれば、

生物学的な能力に差があるのに、

同じ基準で評価されることになる

そこで苦しむのは女性になるのではないだろうか？

社会が個人個人に向き合うことは不可能だけど、個人個人がそれぞれ活躍しやすいように、生物学上の能力を考慮して男女で区別した枠組み(環境)を整えることは可能。

5. 強みを活かすことで生まれるプラスの効果



この強みを活かすことで....

ひとりひとりが得意な分野で活躍できるように！

→無理なく活動できる環境が生まれる

互いの特性の違いを尊重し補い合える！

→より良い成果やパフォーマンスにつながる

いきなり大きな社会を変えることは小さな私達には不可能

結局は自分たちが意識を変えるしかない

まずは自分から、

そして

自分の周りにいる身近な人から変わっていこう！

今回のワークを通して

すでに理解していたことを再確認することができた